

# Citrix Receiver for Windows Phone 8

Jan 29, 2016

[このリリースについて](#)

[システム要件](#)

[構成](#)

[アプリケーション配信の構成](#)

[NetScaler Gatewayによる接続](#)

[ファイアウォールを介した接続](#)

[ユーザーへのアカウント情報の提供](#)

[このリリースで解決された問題について](#)

# Citrix Receiver for Windows Phone 8 1.2について

Oct 09, 2015

## 1.2の新機能

Receiver for Windows Phone 8 1.2で拡張された機能は以下のとおりです。

- **東アジア言語用の文字列入力エディター** — この機能により、Windows Input Method Editor (IME) がサポートされます。入力エディターを有効にするには、[settings] > [preferences] の順に選択します。入力エディターを使用するには、文字列の入力先のアプリケーションウィンドウをタップして、コンポジションウィンドウ内に文字列を入力します。文字列をアプリケーションに送信するには、Enterキーをタップします。
- **ローカリゼーション** — Receiverは、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、およびポルトガル語でも提供されています。
- **XenMobile App Controllerへの直接接続のサポート** — XenMobile App EditionのコンポーネントであるApp Controllerでは、エンタープライズレベルのWebアプリケーションやSaaS (Software-as-a-Service) アプリケーション、iOSデバイス用に開発されたアプリケーション、およびShareFileベースのデータ共有機能をReceiverユーザーに安全に配信できます。メールアドレスによるアカウント検出機能を使用する場合は、ユーザーのメールアドレスに関連付けられているApp ControllerがReceiverにより検出されます。メールアドレスによるアカウント検出機能を使用しない場合は、ReceiverでApp Controllerに接続するための構成が定義されたプロビジョニングファイルをユーザーに提供します。App Controllerの管理コンソールを使用すると、プロビジョニングファイル (CRファイル) をメールでユーザーに送信できます。
- **ユーザーエクスペリエンスの向上**
  - ユーザーはReceiverの画面サイズを拡大して、大きなウィンドウで簡単に作業できるようになりました。セッションの画面サイズを変更するには、[settings] > [Session resolution] の順に選択します。次に、たとえば仮想デスクトップまたはアプリケーションのウィンドウを最大化したり、電話のディスプレイよりも大きな作業領域をパンしたりできます。
  - Receiverではジェスチャに関するアシスタンスを画面に表示できます。アシスタンスを有効にするには、[settings] > [Help] の順に選択します。
  - Mobile SDK for Windows Apps (旧称Mobility Pack) のサポートが拡張され、電話の向きを回転させた時に、Receiverで仮想デスクトップおよびアプリケーションのウィンドウが自動的に調整されるようになりました。
  - ユーザーはログを有効にしてSkyDriveアカウントにログファイルをアップロードし、ログをヘルプデスクに送信できるようになりました。ログを有効にするには、[settings] > [logging] の順に選択します。

# 解決された問題

Oct 09, 2015

- "Legacy graphics mode"ポリシーが有効な場合、ユーザーがWindows Phone 8.1でアプリケーションを開いてWinLogonデスクトップに切り替えると、デバイスを回転させた時に画面のグラフィックが正しく表示されません。

[#LC2746]

- ユーザーがReceiver for Windows Phoneでアプリケーションを開いた時にデバイスを水平方向にすると、アプリケーション画面が正しく表示されません。この問題は、Windows Server 2012 VDA以降で、"Legacy graphics mode"が有効な場合に発生します。

[#LC2787]

- アプリケーションがStoreFrontで機能しないことがあります。

[#LC1531]

- WorxHomeから (ICAファイルの割り当てを介して) Receiverを起動すると、HDXセッションが開始されます。HDXセッションでBackボタンを押すと、WorxHomeではなくReceiverに戻ります。

この修正により、Backボタンを押すとReceiverが閉じてWorxHomeに戻ります。

[#LC0341]

- Receiver for Windows PhoneでAccess Gateway経由でXenApp Servicesサイトに接続する場合、ユーザーが [パスワードを保存する] チェックボックスをオンにすると再ログオンできなくなるという問題がありました。この問題を解決するには、Receiverを再起動する必要がありました。

[#404190]

# 既知の問題

Oct 09, 2015

- サポートされない機能については、『[Citrix Receiver feature matrix \(英文\)](#)』を参照してください。
- このリリースでは一部のグラフィック機能が最適化されていないため、ビデオの再生パフォーマンスが低下することがあります。
- [許可される最大表示色数] ポリシーの値がピクセルあたり16ビット以下に設定されると、グラフィックの表示がおかしくなります。この問題を回避するには、色の深度の値を大きくします。

[#435265]

- Receiver for Windows PhoneでStoreFrontおよびAccess Gateway 9.3にアクセスする環境では、Access GatewayでSmartAccessログオンポイントを構成するとユーザーがReceiverにログオンできなくなります。この問題を回避するには、Access Gatewayで基本ログオンポイントを構成してください。

[#401110]

- XenApp ServicesのURLをサポートするようにStoreFrontが構成されていて、ユーザーがReceiverにログオンする時にドメインを入力しなかった場合、エラーメッセージが表示されず空の [My apps] ページが開きます。この問題を回避するには、Receiverからログオフし、ドメイン、ユーザー名、およびパスワードを入力してログオンします。

[#415874]

- ディスプレイに収まらないアプリケーションダイアログボックスをパンできません。この問題を回避するには、[settings] > [Session resolution] の順に選択して、[fit to screen] 以外の画面サイズを選択します。

[#417532]

- 仮想アプリを開いている時に、電話を横長の向きに回転させ、Receiverの [settings] ページを開き、電話を縦長の向きに回転させ、戻るボタンをタップして仮想アプリに戻ると、仮想アプリが正常に表示されません。正しく表示するには電話の向きを再度回転させる必要があります。

[#419838]

# システム要件

Dec 22, 2016

Receiverは、[Windows Phoneストア](#)からダウンロードおよびインストールできます。

## デバイスの最小要件

- Windows Phone OS 8.0

## Citrixサーバーの環境

- XenDesktopの以下のバージョン：
  - XenDesktop 7.6
  - XenDesktop 7.5
  - XenDesktop 7.1
  - XenDesktop 7
  - XenDesktop 5.6
- XenApp 6.5 for Windows Server 2008 R2
- Citrix VDI-in-a-Box：
  - VDI-in-a-Box 5.3
- Citrix Receiverで仮想デスクトップやアプリケーションに接続する場合、StoreFront、App Controller、およびWeb Interfaceがサポートされます。
  - StoreFront 2.1 (推奨)、StoreFront 2.0、またはStoreFront 1.2：  
StoreFrontストアおよびXenMobile App Controllerで管理されるアプリケーションへの直接アクセスを提供します。
  - App Controller 2.9、2.8、または2.6：  
Windows、Web、およびサービスとしてのソフトウェア (SaaS) アプリケーションへのアクセスを提供します。また、ShareFileアカウントのプロビジョニングとシングルサインオン機能を提供します。App Controllerは、XenMobile App Editionのコンポーネントです。
  - Web Interface 5.4 for Windowsと従来のXenApp Servicesサイト、またはXenDesktop Servicesサイト、およびProgram NeighborhoodエージェントプラグインXenDesktop 7または7.1の環境ではサポートされません)：  
デスクトップやアプリケーションへのWebブラウザからのアクセスを提供します。

Receiver for Webサイトを構成すると、ユーザーがReceiverの [アクティブ化] をクリックしてプロビジョニングファイルを手に入れるようになります。

## Connectivity

Receiver for Windows Phoneでは、以下の構成のHTTPSおよびICA-over-SSL接続がサポートされます。

- LAN接続の場合：
  - StoreFrontサービスによるStoreFront構成
  - App Controllerにより公開されたWebおよびSaaSアプリ
  - XenApp Servicesサイト、またはXenDesktop Servicesサイトで構成されているWeb Interface 5.4 for Windows (XenDesktop 7環境ではサポートされません)
- StoreFront、App Controller、またはXenApp Servicesサイト、またはXenDesktop Servicesサイトで構成されているWeb Interface 5.4からのセキュリティで保護されたリモートまたはローカル接続の場合：
  - Citrix NetScaler Gateway 10.1

- Citrix Access Gateway Enterprise Edition 10 (サポートされる最小バージョンはMaintenance build 69.6です)
- Citrix Access Gateway Enterprise Edition 9.3
- Citrix Access Gateway VPX

重要：Windows Phone 8では、CRLをホストするサーバーからクライアントデバイスに接続できる必要があります。そうでない場合は、アプリケーションの起動に失敗します。

ルート証明書がローカルのキーストアに必要です。これによって接続時にリモートゲートウェイの証明書が検証されます。Receiverで証明書を検証できない場合は、信頼されていない証明書の警告メッセージが表示されます。ユーザーが警告に対してそのまま続行することを選択した場合、アプリケーションの一覧が表示されますが、アプリケーションの起動に失敗します。

デバイスに正しい日付と時刻を構成する必要があります。Windowsによってデバイスの日付に対して証明書の日付がチェックされるためです。

Receiver for Windows Phoneでは証明書は検証されません。ReceiverでSSL接続が許可されるのは、このセクションで説明するように、証明書がオペレーティングシステムによって検証および信頼される場合のみです。

### プライベート (自己署名) 証明書

リモートゲートウェイにプライベート証明書がインストールされている場合は、組織の証明機関のルート証明書をユーザーデバイスにインストールしないと、Citrix ReceiverでCitrixリソースにアクセスできません。

自己署名証明書のインストールについては、Microsoftの文書「[Windows Phone 8 Certificates](#)」を参照してください。

### ユーザーデバイスへのルート証明書のインストール

ユーザーデバイスへのルート証明書のインストールについては、Microsoftの文書「[Windows Phone 8 Certificates](#)」を参照してください。

### ワイルドカード証明書

ワイルドカード証明書は、同一ドメイン内の任意のサーバーで個別のサーバー証明書の代わりに使用します。Receiver for Windows Phoneでは、ワイルドカード証明書がサポートされています。

### 中間証明書とNetScaler GatewayまたはAccess Gateway

証明書チェーンに中間証明書が含まれる場合は、中間証明書をNetScaler GatewayまたはAccess Gatewayのサーバー証明書に追加する必要があります。詳しくは、「[中間証明書の構成](#)」を参照してください。

Receiver for Windows Phoneで、StoreFront、NetScaler Gateway、またはAccess Gateway Enterprise Editionを使用する場合、次の認証方法がサポートされます。

- ドメイン
- セキュリティトークン\*
- 2要素 (ドメイン+セキュリティトークン) \*

\* NetScaler GatewayまたはAccess Gatewayを使用する環境でのみ使用できます。

認証について詳しくは、eDocsのNetScaler Gatewayのドキュメントの「[Configuring Authentication and Authorization](#)」

と、StoreFrontのドキュメントの「[管理](#)」のトピックを参照してください。

認証がNetScaler Gatewayサーバーで有効な場合、Receiver for Windows PhoneはNetScaler Gatewayを使用したPNAgentアクセスでのみサポートされます。

Receiver for Windows Phoneで、XenApp Servicesサイト、XenDesktop Servicesサイト、およびNetScalerまたはAccess Gatewayを使用する場合、次の認証方法がサポートされます（Web Interfaceでは、「指定ユーザー」による認証がドメイン+セキュリティトークン認証に相当します）。

- ドメイン
- セキュリティトークン\*
- 2要素（ドメイン+セキュリティトークン）\*

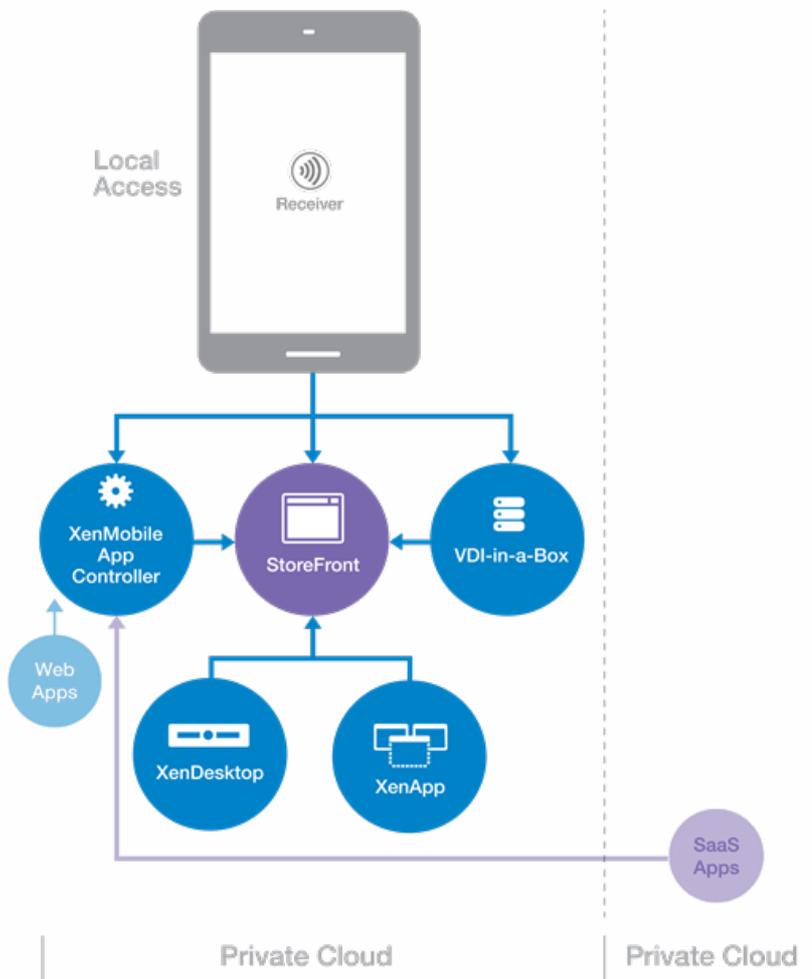
\* NetScaler GatewayまたはAccess Gatewayを使用する環境でのみ使用できます。

認証方法およびWeb Interfaceについて詳しくは、「[Web Interfaceの認証方法の構成](#)」を参照してください。

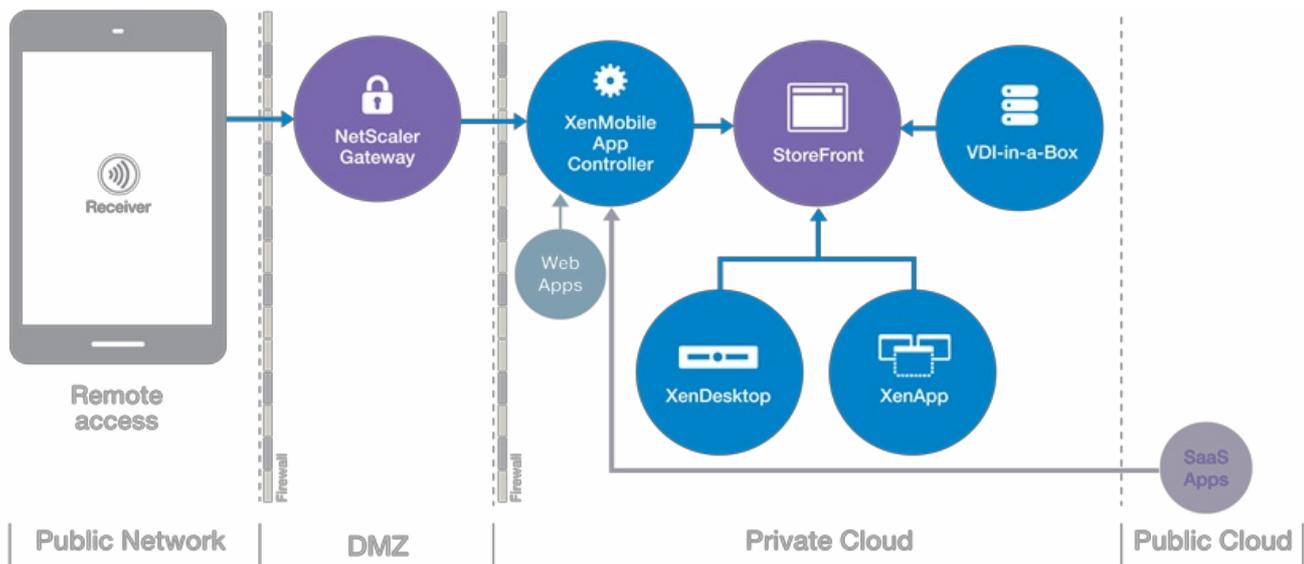
# 構成

Jan 29, 2016

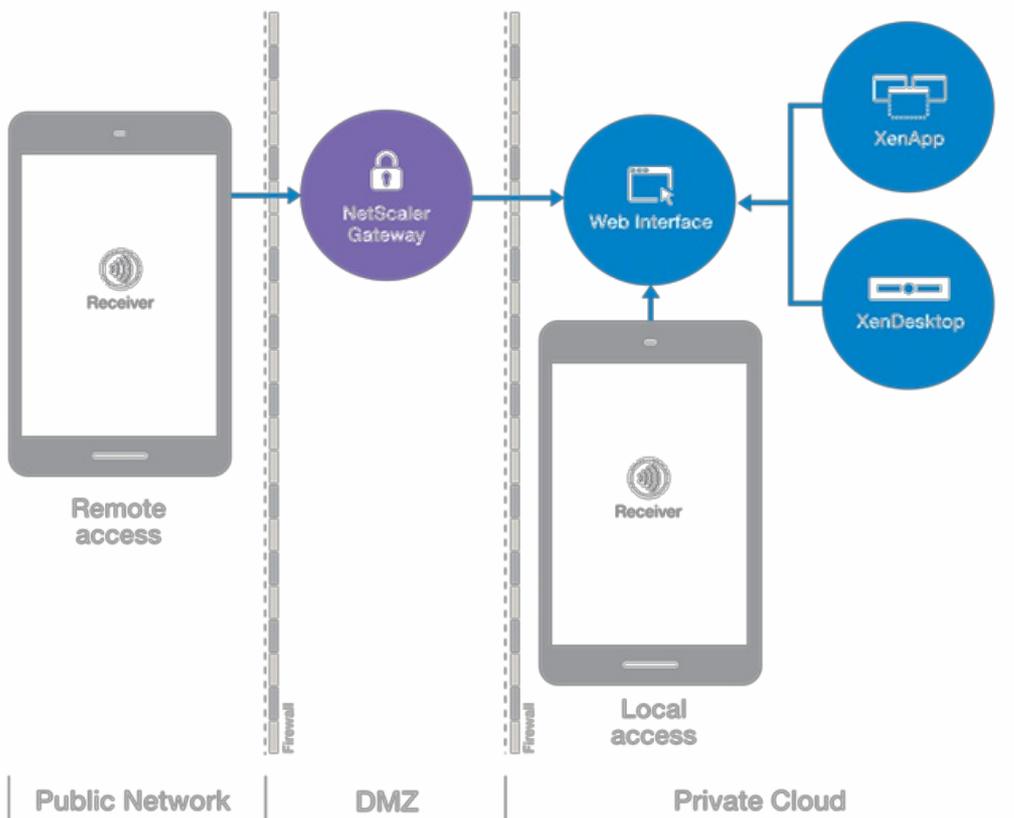
Receiver for Windows Phoneは、仮想デスクトップおよびアプリケーションへのStoreFront、App Controller、またはWeb Interface接続をサポートします。次の図は、ReceiverからStoreFrontへのローカル接続を示しています。



次の図は、NetScaler Gatewayを経由するReceiverからStoreFrontへのリモート接続を示しています。



次の図は、NetScaler Gatewayを経由するReceiverからWeb Interfaceへのリモート接続を示しています。



次の構成手順により、ユーザーが仮想デスクトップおよびアプリケーションにアクセスできるようになります。

- **アプリケーション配信の構成**を実行して、ユーザーがStoreFrontストアを介してアプリケーションにアクセスする場合のユーザーエクスペリエンスを拡張します。  
サポートされているXenDesktopのバージョンでは、特別な構成なしでReceiver for Windows Phoneを介した接続を実行できます。
- 「StoreFront」のドキュメントで説明されているように、ユーザーが仮想デスクトップやアプリケーションを使用できるようにStoreFrontを構成します。

サポートされているWeb Interfaceのバージョンでは、特別な構成なしでReceiver for Windows Phoneを介した接続を実行できます。

- NetScaler Gatewayで接続して、セキュリティで保護されたアクセスを構成します。
- ファイアウォールを介して接続します。
- ユーザーにアカウント情報を提供します。

# アプリケーション配信の構成

Jun 22, 2013

XenDesktopやXenAppでアプリケーションをユーザーに配信するときは、StoreFrontのストアを使ってアプリケーションにアクセスするユーザーのエクスペリエンスを向上させるために、次のオプションについて検討します。XenDesktop 7でのアプリケーション配信については、XenDesktop 7のドキュメントの「[デリバリーグループアプリケーションの作成](#)」を参照してください。

- デリバリーグループのアプリケーションにわかりやすい説明を入力します。この説明は、Receiverのユーザーに表示されます。
- アプリケーションがストアのユーザー全員に自動的にサブスクライブされるようにするには、アプリケーションの説明に「KEYWORDS:Auto」という文字列を追加します。ユーザーがストアにログオンすると、そのアプリケーションを手動でサブスクライブしなくても自動的にプロビジョニングされます。
- Autoキーワードと同じ自動サブスクリプションを提供し、さらにユーザーがReceiverを使用してアプリケーションを削除することを防ぐには、アプリケーションの説明に「KEYWORDS:Mandatory」という文字列を追加します。
- 説明に「KEYWORDS:Featured」という文字列を追加すると、そのアプリケーションがCitrix Receiverの[おすすめ]一覧に表示され、ユーザーがそのアプリケーションを見つけやすくなります。

# NetScaler Gatewayによる接続

Jun 22, 2013

注：Access GatewayはNetScaler Gatewayに名称が変更されました。このトピックの内容は、サポートされるバージョンの両方の製品に当てはまります。

リモートのユーザーがNetScaler Gatewayを介して接続できるようにするには、StoreFrontと通信するように構成します。

StoreFront環境では、NetScaler GatewayとStoreFrontを統合することで内部ユーザーやリモートユーザーがStoreFrontに接続できるようにします。ユーザーは、StoreFrontに接続して仮想デスクトップおよびアプリケーションにアクセスします。ユーザーは、Receiverを使用して接続を行います。

接続の構成方法については、Citrix eDocsの「[Integrating NetScaler Gateway with XenMobile App Edition](#)」の各トピックを参照してください。Receiver for Windows Phoneでの設定については、以下のトピックを参照してください。

- [Configuring Session Policies and Profiles for XenMobile App Edition](#)
- [Creating the Session Profile for Receiver for XenMobile App Edition](#)
- [Configuring Custom Clientless Access Policies for Receiver](#)

リモートのユーザーがNetScaler Gatewayを介してWeb Interface環境に接続できるようにするには、Web Interfaceと通信するようにNetScaler Gatewayを構成します。詳しくは、Citrix eDocsの「[Providing Access to Published Applications and Virtual Desktops Through the Web Interface](#)」の各トピックを参照してください。

# ファイアウォールを介した接続

Jun 05, 2013

ネットワークファイアウォールは、送信先アドレスとポート番号に基づいてパケットを通過させたりブロックしたりできます。ファイアウォールが使用されている環境では、Receiverがファイアウォールを介して通信できるようにするため、以下の設定が必要です。

- ユーザーデバイスからWebサーバーへの通信のため、ファイアウォールでポート80を使用するHTTPトラフィックまたはポート443を使用するHTTPSトラフィックを許可する必要があります。
- Receiverからサーバー側ネットワーク内のCitrixコンポーネントへの通信のため、ファイアウォールでポート1494および2598を使用する受信ICAトラフィックを許可する必要があります。

# ユーザーへのアカウント情報の提供

Dec 02, 2013

Citrix Receiverを[Windows Phoneストア](#)からダウンロードおよびインストールするように、ユーザーに指示します。以前のリリースからアップグレードするには、Windows Phoneストアから新しいバージョンをインストールして、画面の指示に従ってアカウントをセットアップします。このバージョンのReceiverでは単一のアカウントがサポートされます。別のStoreFrontストアのアプリまたはデスクトップを使用するには、現在のアカウントを削除して別のアカウントを追加する必要があります。

管理者は、ユーザーにアカウントの情報を提供します。ユーザーは、この情報を使用して仮想アプリやデスクトップに接続します。この情報を提供するには、次のいずれかの方法を使用します。

- メールアドレスによるアカウント検出を構成する
- ユーザーにプロビジョニングファイルを提供する
- アカウント情報をユーザーに手入力させる

注：ReceiverでWeb Interfaceに接続する環境では、メールアドレスによるアカウント検出がサポートされません。

管理者がメールアドレスによるアカウント検出機能を有効にした場合、ユーザーはWindows PhoneにReceiverを初めてインストールするときに、サーバーのURLの代わりに自分のメールアドレスを入力できます。DNS (Domain Name System) サービス (SRV) レコードに基づいて、そのメールアドレスに関連付けられているNetScaler Gateway、StoreFrontサーバー、またはApp Controller仮想アライアンスが自動的に検出され、仮想アプリケーションやデスクトップへのログオンを求めるメッセージが表示されます。

メールアドレスによるReceiverアカウントの検出機能が正しく動作するようにDNSサーバーを構成する方法については、StoreFrontのドキュメントの「[メールによるアカウント検出を構成する](#)」を参照してください。

NetScaler Gatewayを構成する方法については、NetScaler Gatewayのドキュメントの「[Connecting to StoreFront by using email-based discovery](#)」を参照してください。

注：ReceiverでWeb Interfaceに接続する環境では、プロビジョニングファイルがサポートされません。

StoreFrontおよびApp Controllerにより提供されるプロビジョニングファイルを使用して、ユーザーはストアやApp Controllerに接続できます。

- プロビジョニングファイルにはアカウントのための接続の詳細情報が含まれます。ユーザーにプロビジョニングファイルを提供するには、メールに添付するかWebサイトからダウンロードできるようにします。Receiverをインストールした後で、提供されたファイルをユーザーが開くとReceiverが自動的に構成されます。Receiver for Webサイトを構成する場合は、そのサイトからユーザーにReceiverのプロビジョニングファイルを提供することもできます。詳しくは、StoreFrontのドキュメントの「[ユーザーに配布するストアプロビジョニングファイルをエクスポートするには](#)」を参照してください。
- AppController 2.8または2.5では、プロビジョニングファイルが添付されたメールをReceiverユーザーに送信できます。プロビジョニングファイルには、ReceiverでApp Controllerに接続するための情報が定義されています。詳しくは、eDocsの「AppController」のトピックを参照してください。

ユーザーにアカウント情報を入力させる場合は、以下の情報を提供する必要があります。

- <https://servername.company.com>など、リソースをホストするStoreFrontストア、App Controller、またはWeb Interface 展開環境のXenAppまたはXenDesktop ServicesサイトのURL。  
サイトにデフォルトストアがある場合は、完全なURLは不要です。
- NetScaler GatewayまたはAccess Gatewayのアドレス（リモートアクセス用）

ユーザーがアカウントの詳細を入力すると、Receiverにより接続が検証されアカウントへのログオンを求めるメッセージが表示されます。

ユーザーがReceiver for Webサイトに移動すると、インストールまたはログオンを求めるメッセージが表示されます。以下の手順に従うように、ユーザーに指示します。

1. インストールまたはログオンを求めるメッセージが表示されたら、[Log on] をタップします（Receiver for Windows 8 Phoneが既にインストールされているため、ユーザーがログオンする必要があります）。  
[Receiver for Web] ウィンドウに使用できるアプリの一覧が表示されます。
2. [Receiver for Web] ウィンドウからアプリを起動します。
3. 開くまたは保存を求めるメッセージが表示されたら、[Open] をタップします。  
アプリが起動します。

ユーザーが仮想アプリを起動すると、ファイルを開くかまたは保存を求めるメッセージが表示されます。ユーザーが [Open] をタップするとアプリが起動します。

Receiverで自動的に認証要件（パスワードか、パスワードおよびパスコード）が検出され、それに応じて認証情報を入力する画面が表示されます。プロトコルでほかの認証方法が必要とされる場合は、デフォルトでパスワードを要求します。

注：ユーザーがソフトトークンアプリで生成するパスコードをReceiverに入力する場合は、ソフトトークンアプリで戻るボタンを長押しし、アプリスイッチャーでReceiverをタップしてReceiverのログオン画面に戻ります。  
ユーザーはReceiverにパスワードを保存できます。Web Interfaceを展開している場合は、Receiverからこのプロンプトを削除することができます。「[指定ユーザー認証のパスワード設定を構成するには](#)」を参照してください。

ユーザー認証の後、Receiverにユーザーアカウントの詳細が保存されます。

Receiver for Windows Phoneでは単一のアカウント情報を保存できます。Receiverアプリバーの[settings] ページに移動して、アカウント情報を編集または削除したり、保存済みのパスワードを削除したりできます。

# Receiver for Windows Phone 8 1.2.xで解決された問題

Jan 29, 2016

製品 : Citrix Receiver for Windows Phone 8

現在の製品のバージョン : Receiver for Windows Phone 8 1.2.2

Receiver for Windows Phone 8 1.2.xでは、以下の問題が解決されています。

[Receiver for Windows Phone 8 1.2.2.0](#)

[Receiver for Windows Phone 8 1.2.1.0](#)

[Receiver for Windows Phone 8 1.2](#)

## Citrix Receiver for Windows 8.1.2以降の修正

Receiver for Windows Phone 8 1.2.2.0には、Receiver for Windows Phone 1.2および1.2.1.0に含まれていたすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

1. "Legacy graphics mode"ポリシーが有効な場合、ユーザーがWindows Phone 8.1でアプリケーションを開いてWinLogonデスクトップに切り替えると、デバイスを回転させた際に画面のグラフィックが正しく表示されません。

[#LC2746]

2. ユーザーがReceiver for Windows Phoneでアプリケーションを開いたときにデバイスを水平高校の位置にすると、アプリケーション画面が正しく表示されません。この問題は、Windows Server 2012 VDA以降で、"Legacy graphics mode"が有効な場合に発生します。

[#LC2787]

## Citrix Receiver for Windows 8.1.2以降の修正

Receiver for Windows Phone 8 1.2.1.0には、Receiver for Windows Phone 8 1.2に含まれていたすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

1. アプリケーションがStoreFrontで機能しないことがあります。

[#LC1531]

2. WorxHomeから（ICAファイルの割り当てを介して）Receiverを起動すると、HDXセッションが開始されます。HDXセッションでBackボタンを押すと、WorxHomeではなくReceiverに戻ります。

この修正により、Backボタンを押すとReceiverが閉じてWorxHomeに戻ります。

[#LC0341]

1. Receiver for Windows PhoneでAccess Gateway経由でXenApp Servicesサイトに接続する場合、ユーザーが [パスワードを保存する] チェックボックスをオンにすると再ログオンできなくなるという問題がありました。この問題を解決するに

は、Receiverを再起動する必要がありました。[#404190]

[#404190]